い、うづめおいてみなめん〳〵やる事情、とりあつかひでけん、十分さき〳〵さとさにやならん、これ一つきゝわけ、ならん處尋ねばさしづをみなしてある、さしづ事情、これだけの事なら、それだけの事ならと日々おくり、さしづ事情みなおぼれてある、ようきゝわけ、まあ内々に一つ事情、時々のはなし、とき〴〵の事情、刻限事情、だん〳〵これまでいくへはなしある、ほんの十のものなら九つまでおぼれて、あと一つはつちやまもる事できん、きゝいれる事でけん、ようきゝわけ、長いはなし、長い話しかけたら一時間や二時間でときつくすことできん、あちら神がさがり、こちら神がさがりて、どこからみなほんにとわかりがたない、どんなこといふたやら、一時たへられんやうな事いふたるさうな、どこからいふ、きゝわけ〳〵、にんそくといふ、あちらこちらふるい事情にて、あちらへちよい〳〵しておいた、ぜん〳〵の道と、道と〳〵の理をきゝわけきゝわけにやわからん、はなしあちらこちらちよい〳〵きいてゐる、きいてゐる中に、一寸何歳なるものが、此者いつ〳〵までもらひうけたる中にそのまゝすておいたる、これわかるかわからんか、

ところ〳〵で一寸と〳〵ことばおろしてある、すつかりもらひうけたる事情きゝわけ、事情みなうづもれたる、年限たつみてゐるやうなもの、けふの事情一時尋ねる、どういふ事尋ねるやらわからん、尋ねたらどんな事でも、ことばうけてみなたんのうしてかへる、わかるわからん、わからんは道といふ事でけん、道といふは相當道である、とりやうきゝやうむつかしい、むつかしい事でもそこさばいてゆくはとりつぎといふ、みなゑんりよきがね、世上にゑんりよはいらん、さしづ理である、事情といふはちがふ事一つもさとせん、どうもならん、これさとしたら道十分といふ、どちらからはなしかけ、あちら一寸あらためてさとす事情ある、これようきゝわけにやならん、これまであぶない處、どうなりかうなりつれてとほりやこそとほれる、じせつでとほれるのやない、じせつでとほれるとおもふは心がまちがふてあるのやで、ようきゝわけにやならんで〳〵、まあこれがかなごと、かるい事できかす、まあどうりからもと〳〵はめん〳〵がものありた事人にてわたしたやうなもの、とき〳〵によつてこれはけつこう〳〵、さあこれはどうなる、これだけは

なしたらすみやかわかるやらう。

しばらくして

わたしたやうなものや、わたしたやうなものやと、それはどういふもの、此道三十年二十年、あとどうりきゝわけ、そのときわがものといふは、生涯わがもの、ようきゝわけて、一時まちがふどうりようきゝわけ、どこにどういふ事さづけた、かういふ事さづけた、それは修理して、つくりあげてこそわがものである。

明治三十年六月五日夜

一昨晩御本席御身上御障り有之しに付願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、身上〳〵一つの事情、さあ〳〵事情あきらかならずといふ、事情どうなりの事情から尋ねる、事情尋ねば重々事情、たぶん〳〵の事情かさなりある、けふはよいあすはよい、一つ〳〵の心に何もいふ事なく、おもふ事もなく、陽氣ゆさん、國々所々あちらこちら、十分にはこびきたる處、日々事情、だん〳〵事情かさなり〳〵、身上に事情あれば、まあどういふ事であらうとおもてゐ

る、だん〳〵かさなりある事情、日々同じ一つの理、けふはよいあすはあすといふは、いふにいはれんたへるにたへられん事情理がふくんである、しんじつからおもひ一つの理ひらき、これまでどんな事もみてゐるやろ、とほりてきたやろ、いつ〳〵まで何もいふ事なければよい、又おなじ事ならよい、ちよい〳〵さはり〳〵といふ處から、みんな一つの心をよせてあんしんさゝにやならん、なつてからどうもならんで〳〵、ようきゝわけ、一寸の事がながふなりてはならんで、あとでほつとおもひだすやうな事ありてはならん、これまでときながしきゝながしはいはんで、神はときながしはいはん、ときながしならきゝながしでよい、ようきゝわけ、うづんでおいたてでゝくる、おぼつておいてもでてくる、それ〳〵かうとおもて、一度二度會議〳〵で日をおくり、日をおくるばかりではどうもならん、一日の日つとまるも、將來つとまるも同じやうな心ではこんでくれ、とりぞこないしてはならん、長い年限であろまい、いつ〳〵なれば十分一つたんのうもさし、一つくるしみもすくはにやならん、みなしんじつあらためかへてもらひたい、是だけさとしたら十分

わかるやらう、どんな事やとなりてからどうしたらよからうと、うろ〳〵してはならん、これだけさとしたらみなだんじあふて、ふかいやうであさい、神がちからぬいたらどうもならん、これだけさとしたら、これも一つ、あれも一つ、一々わかりてくる、いはずかたらずみな心にあるのや〳〵、なれどめん〳〵わがみかはいゝとおもふ處から十分つみたてる事でけん、この一つはなし、たいていみなかはい一つでさとす、これだけさとしたら、十分の心もつてくれにやならうまい。

是迄の事情運ぶ處御知せ下さるか押して願

さあ〳〵みんなこれ一つわかれば二つわかる、ようきゝわけてなんでもかでもあんしんさゝにやならん〳〵、日々はこび、日々せいて身上不足あれば、なんの事情もはこぶ事でけん、事情のび〳〵日がおくれる、萬事一時早くあんらくはこんで、心やすまさにやなろまい。

押して、仮降まさるの處で有ります哉

さあ〳〵ゑんだん〳〵といふて、まあこれ長い間の事に、どうもならん事情いつもならん、それについて、ならんからいはにやならん、いはにやはこばん、むりな事ならんといふた處がどうもなろまい、事情かはりたらかはりたやうの事情からはこんで、あんしんさゝにやならん、これまであんしん心の治まる日、どうもあろまい、ようきゝわけてなるよういくようといふは、心一つどうもならんから治めてゐる、年があけてもそのまゝ、そのまゝといふはあんしんは一寸もをさめてあろまい。

明治三十年六月五日

諸井國三郎殖産工業の事情を兼ね臺灣臺中縣へ布教の儀願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、さあたづねる事情には、これまでとほいはなしにもきいてゐる、事情一時もつて尋ねるは、とほいはなしには一寸をひ〳〵の理ともいふ、身上に一つの事情なければ何時なりと、さあすみやかゆるしおかう〳〵。

先以て諸井國三郎二十日頃より行事願

さあ〳〵心得にまかせおくによつて、身上もそうけん、みな〳〵いさんで心事情、心

一つうれしい、しんじつ心理をもつてあざやかなら、何時なりと許しおかう〳〵。

一六八

明治三十年六月五日

山名部内三東布教所藤田金八郎退職に付土井啓藏に後任願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はぜん〳〵事情一つ一時もつて事情かうといふ處、事情よぎなき事情一時たづねる事情は、それ〳〵心の理にてゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月五日

河原町部内恭仁出張所別座敷を造作して教會所に致し度、門新に建築願

さあ〳〵尋ねる事情、さあ〳〵事情はねがひどほり、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月七日

東分教會教祖樣神床の向拜致し度願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほりゆるしおかう、心だけゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月七日

河原町部内中野支教會長家族共教會へ引移り願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はみなそれ〳〵心といふ事情、一つめん〳〵事情重々の理、心それ〳〵みな〳〵心へ中の理出る〳〵、ゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月七日

奈良支教會長伴森川宇次郎身上願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、身上はぜん〳〵一つ事情、身の處せまる處、たいへん心といふ、どうであらう、かうであろ、云ふまで心といふ理をさまらん、又身上かはりて事情かはりてどうもわからん〳〵、たづねる事情にてたづねるから一寸さしづおよぶ、ようきゝわけ、ならうと云ふてならん事情きゝわけ、又よりやふてたがひ〳〵日々事情つくす處日々うけとる、だん〳〵事情一名一つになりて事情それ〳〵事情、十分はこんでゐる中に、ならんと云ふ中、一つこゝは一つつとめる處や〳〵、心といふ理もつてたんのうあつめて、一時となりてくれるなら、今に一つ事

一六九

情がみえる、これだけさしづおよんでおくによつて。

明治三十年六月八日

東部内麻布出張所設置願（東京市麻布區麻布廣町三五番地、擔任飯田粂吉）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ出願の願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

同部内京橋支教會新六月二十二日鎮座祭二十三日開筵式の願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月八日

增野正兵衛咳出るに付願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵まあ身上には心得ん、どういふ事であらうかういふ事であろ、いくへしやんすれどそらわからうまい、よう聞分け、たぶんの中に事情といふ、又一寸でこすといふ、又一つ〳〵しるしみてかうといふ、そらめん

〳〵きゝわけ、ようがおほくなる、おほくの中にみなだんじあふての中、これからさきどんな用ができるやらわからん、いそがしい用でける、あちらから一寸かゝる、こちらから一寸かゝる、事情がたぶんかゝる、たぶんの中にたいはん一寸やく〳〵あるやうなもの、なれどやく〳〵、たれと〳〵といふ事は定まつてあろまい、なにとなにとなにのやく〳〵、これ一時定めにやならん、でけてくる、はなしつけたらせにやならん、ばんじ用がかゝればいそがしい、いそがしいければ、みなわりあふてせにやならん、そのば〳〵事情によつてどうもならん、これからどういふところからさだめるやらわからん、めん〳〵いづれ〳〵といふてとほりたる、なんでもかでも定めにやならん、しんからあちらこちら、もうはなししようか、もうこくげんでさとさうか、おもへども一つ理がおもむかず、つくした理はおなじ事情、上下の理はない、しんじつつれてあるく、つれてとほる、たれと〳〵の理はない、はこんだ理はうけとる、この道かぎりなき〳〵なれど、將來人間このかよひみちはきらにやならん、これから萬事いかにやいかん、いかんやうの道がある、なりやなる

やうの道がある、つくすはつくす、はこぶははこぶやうの道がある、これきゝわけ、よき理ははこぶ、まあよくつくすはこぶ、これはなしあふて、はやく理をひらいて、よい處もつてどんな理もつてさばくは道といふ、一どの理に話しておかう。

明治三十年六月八日

富松清三郎身上願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、身上不足なる事情尋ねる、みんなこの事情聞分けにやならんで、一度さしづといふは將來末代の理とさとしたる、つくしはこんだ理は末代、つくした理はどうも云ふ、よう聞分けば萬事あざやか、身上不足なりて尋ねる、はなしどほりころつゝと事情、何がちがふと云ふ、どうせにやならん、かうせにやならん、いつの事情にもさとしにくい、どうせかうせはいはん、一時早い理でわかる〳〵、かやしてこれまでさとしたる、如何な理も治まれば、ほんになるほどと治まる處からこの道と云ふ、又聞分け、なんぼうでもならん〳〵、どうせいと云ふはよう聞分け、つくした理は將來末代の理、これ聞分け、人間生れかはり出かはり

聞分け、いくたびかわからん、そのば事情、その事しんじつわかればみなわかる、よう聞分けてくれ。

明治三十年六月九日

兵神部内名田支教會所普請一條並に附屬物願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

右地ならし大工始六月二十日に致し度願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月十一日

南海部内愛三布教所設置願（愛知縣碧海郡高棚村一七八番地深津秋治郎控家に）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十年六月十一日

高知部内城邊出張所開始め舊六月五日願（月次祭舊六日説教舊三の日鳴物御紋の願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

同部内岩松出張所開始め舊六月十六日願（月次祭舊五日説教舊六日十六日二十六日鳴物御紋の願）

さあ〳〵尋ねる事情、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月十一日

西部内江井布教所設置願（淡路國津名郡江井村ノ内垂井村六三五番邸、擔任山下秀藏）

さあ〳〵尋ねる事情、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ出願の願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十年六月十一日

寺田半兵衛身上願（四五十日前よりねついでいろ〳〵となやみにより）

さあ〳〵尋ねる處〳〵、身上に事情ありて尋ねる處、まあいくへ事情、なんど事

情、尋ねる事情みな集めてさとしおいたる、内々事情又さき〳〵事情、たれ一つかゝろまい、皆めん〳〵かゝるやろ、あちらこちらなんたるとおもふ處、ようきゝわけ、大き一つ理をもつて、ひろく理をもつて、なるならんやない、此世界事情みよ、如何なる事情きゝわけ、もうどうならうといふ理さらにいらん、このものあのものこれやなけりやならん〳〵、すつきり心にひらきつけてしまへ、いつ〳〵までやない、何ほどおもふた處がどうもならん、つくした理はいつ〳〵まで、又内々事情なるならん處あらう〳〵、一時もつてをさめる事できん、他にながめられどうやしらんどうもならんで、どうしようやしらんといふはさらにいらん、道の上しやん〳〵、たよりとおもへどどうもならんといふ、是きゝわけ、ひらきをつけて是よりさき長く道ならどんな大き道あるともわからん、道は大き長くといふ、これ一つさしづにおよぶ。

明治三十年六月十三日

泉支教會會長小倉芳治郎辭職御許し被下願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ一時事情尋ねる處、事情にては心によぎなく事情であらう、よぎなく事情であれば、心に治めて事情どうでも事情〳〵おもふ一つ理、まあよく〳〵一つしやん定め〳〵、しやんして事情一時ならん、よぎなく事情であらうが、ようきゝわけ、一時はかりがたない、とんと事情ほのかの事情がたのしみ、たのしみはかうしたら事情は治まるであらう、一時事情たつてどうとはいへん、ようきゝわけにやならん、一つをさまるやらうといふ、一時たづねる事情、ようしやん、こゝまではなしおくによつて、とくとしやんしてみよ。

明治三十年六月十三日

郡山部内登赤出張所移轉願（同來島村大字貫木十二番屋敷へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、尋ねる事情はぜん〳〵に一つ一時もつて事情かうといふ處たづねる、一つ理はそれ〳〵理にゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月十五日

兵神部内伊丹出張所鎮座祭舊六月五日朝、開筵式五日御道具一式鳴物九つ願（併て月次祭舊五日入庇祭舊

十五日說教新一日二十一日御許願）

さあ〳〵尋ねる事情は〳〵、さあ事情は願ひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

右造作御許願

さあ〳〵尋ねる事情、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月十五日

河原町部内成岩出張所移轉願（成岩町千四十五番戸へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあぜん〳〵事情一つ又一時もつてかうといふ、尋ねる事情それ〳〵心事情によつてゆるしおかう。

明治三十年六月十五日

山名部内楠葉出張所設置願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ出願の願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十年六月十五日

城島部内紀陽支教會普請願（役員室二間に七間二階附、會長室二間に三間二階附、二棟手斧始舊本月二十五日石搗舊本月二十五日木作出來次第棟上願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

右教會長中西同教會所へ家族引移願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵事情ねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月十五日

梅谷部内北野支教會擔任變更後任者森本儀三郎に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵事情よぎなく事情である、一時尋ねる十分の理であつて十分の理にゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月十五日

櫻井部内佐奈布教所擔任變更後任者大久保松太郎に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情ぜん〳〵事情一つ一時事情かうといふ處尋ねる事

情、それ〳〵心の理にゆるしおかう。

明治三十年六月十五日

寿野喜市に梅谷たかを妻に貰ひ度く相方家内皆心治りしに付御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、縁談一條の理を尋ねる、みな〳〵それ〳〵さあたのしみ、又一つぬしと〳〵心、心おきなう事情、十々の理十々の理、はこぶ一つの理、どちらもたのしみ、理と理と十々の理、何時なりとじいうよう〳〵。

明治三十年六月二十二日

御本席四五日以前齒痛みに付願

さあ〳〵尋ねにやなろまい〳〵、どうもこゝろえん理であろ、いく何名人をそろへはこぶ處、身上さはる處、まい〳〵さとしたる道といふ、いつ〳〵まで同じ事と思ふ、心まちがふて〳〵それきゝわけ、心そへて一つ萬事たんのうさゝにやなろまい、いつ〳〵までとおもふたらちがふ、これ一つさとせばはこばにやならん、萬事さしづまにあふ、さしづはまにあはす、まにあはんさしづはまにあはさんといふ、

それではどうもなろまい、ようきゝわけ、あんしんしてたのしみなる、一日の日千日にむかふ、一日の日萬日にとゞく、いくへさしづしたとて、さとしたとて、どうもならん、これをきゝわけ〳〵。

明治三十年六月二十二日

泉支教會會長辭職に付再び願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、一時もつて尋ねる處は、ぜん〳〵に事情ありて尋ねた一つが事情、ことばといふはよぎなく事情〳〵心にありて一つ、又だん〳〵さしづといふ理、まだとてもといへばならうまい、しばらくこゝろやすみノ〳〵。

明治三十年六月二十二日

郡山部内益城出張所設置願（熊本縣上益城郡秋津村字秋田一九七八番地、擔任水上百能）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

同部内滴水出張所設置願（肥後國鹿本郡櫻井村大字滴水九〇五番地、擔任永廣通）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

同部内花房布教所を出張所に引直し願

さあ〳〵尋ねる事情は〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

同部内春竹布教所を出張所に引直し願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情願ひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

同部内新澤布教所、畫圖布教所を出張所に引直し願

さあ〳〵たづねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

同日、郡山部内神尾布教所設置願（熊本縣國名郡神尾村大字岩四千四十七番屋敷、擔任中島楷津喜）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

一八二

右地方廳へ出願の願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十年六月二十二日

兵神部内玖珂布教事務所移轉願（同郡同村四百十八番屋敷木藤良源吉宅へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情は一つまでぜん〳〵一時もつて事情かうといふ、一時みな〳〵心一つ理にてゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ願

さあ〳〵事情はすぐと〳〵。

同布教所普請願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はとうぶん一つ事情にてかうといふ、又はさあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月二十二日

高安部内三原出張所六間に三間の建物木作出來次第棟上願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月二十二日

城島部内東海出張所擔任小倉義教退職に付御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵ぜん〳〵に事情ながらえ道すぢといふ、事情は心一つであつまる一つ理、一時事情かうといふ處、まづ〳〵あらためて一つしやんしてみるがよい。

是非事情に付押して願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ〳〵みな心といふ理がありてよぎなく事情と云へばぜひなく事情、一時もつて尋ねやす處、事情それ〳〵みな事情にまかせおかう〳〵。

一八三

明治三十年六月二十二日

撫養部内西香川出張所縣廳より取消し致せしに付所々あと〳〵心得の爲願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ一時もつてどうならうといふ事情、あと〳〵心といふ理はいらん、どんな處とりぞこないやあたなあといふ處、ついにあらはれる〳〵。

明治三十年六月二十二日

高知部内北和出張所祭日願（月次祭舊六日說教九の日鳴物御紋及開始來月二十日に願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月二十二日

堺部内府中布教所移轉願（同所七百八十三番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、ぜん〳〵に事情一つさあ又あらためてかうといふ、又尋ねる事情、それ〳〵心一つ心理にゆるしおかう〳〵。

右地方廳への願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十年六月二十二日

柏原源次郎の願

さあ〳〵たづねる處〳〵、まあどう云ふ處からも尋ねにやならん、處とほい處にて身上に一つかゝる處尋ねる、とほい處道は一つで道ありて事情かず〳〵あろ、かず〳〵ありてめん〳〵身上せつなみ〳〵たへられんと云ふ、まあ一つ萬事たづねる處、一度の處二度萬事あらためて、それ〳〵心はあさんさゝにやなろまい。

押して

さあ〳〵一時はどうであらうと云ふ理であろ、ぢゆう〳〵心たのしみ、心まかせ、事情十分治まりたら又しばらくと云ふ。

名東支教會の處であります哉願

さあ〳〵ほのかにても、心にかゝれば理はぢゆう〳〵であるで、萬事の處理は一つにこもるであらう。

明治三十年六月二十三日

芦津部内和田濱出張所設置願（香川縣豐田郡姫ノ江村大字和田濱二二二番戸、擔任合田宗四郎）

さあ〳〵尋ねる事情は〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

同部内和歌浦出張所祭日願（月次祭舊十三日入社祭新十日靈祭同十五日説教二の日鳴物御紋）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

右新七月三日開始め致度願

さあ〳〵尋ねる事情、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月二十四日

芦津部内紀周出張所祭日願（舊十八日月次祭舊一日入社祭十日靈祭新八の日説教、鳴物御紋）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情はねがひどほりゆるしおかう、さあ〳〵ねがひどほり〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月二十四日（舊五月二十五日）夜

西浦彌平妻おしを身上願

さあ〳〵〳〵たづねる事情〳〵、よぎなくの事情をたづねるやろ〳〵、事情はよぎなく事情ではあろまい、みな一つ〳〵の事情、これまでのみちすぢ〳〵、どんな中もとほりきたる、一日の日をはじめてどうでもと思ふ、ながい年限であろ、しやんが一つの事情、よぎなくの事情から、これではなあと思ふはやま〳〵十々の理であろ、なれどよくきゝわけ〳〵、取りなほせ〳〵、ならん〳〵の事情やない、ならん事情はなんぼ思ふてもならん、なる事情なら一つの心からあらため、かへす〳〵どうなるもかうなるもいんねんと云ふ、一つの理一つのさとしはこれまでだん〳〵ほのかの話にもきいてもゐるやろ、なれど一寸には思ひひらきはできやうまい、世上世界の事情をみて、一つのふみどまりなくばなろまい、またこの先きどうなろと思ふ心はさら〳〵もたぬやう、又おくれ〳〵の理は取りかやせんと思ふ、さうやないで、世上のなんを聞いてたんのう、みてたんのう一つの心をさだめてくれ〳〵、一つの

ふみどまり〳〵、この理をしつかり心にをさめるなら、一つのたのしみは十々の理にあるほどに〳〵。

明治三十年六月二十六日

郡山部内泉南支教會移轉願（同郡南近義村字橋本六六番屋敷へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情は一つぜん〳〵事情一つ又事情あらためて事情かうといふ、みなそれ〳〵心一つ理にゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月二十六日

河原町部内越乃國支教會新築に付圖面を以て願（地搗新七月八日石搗同九日手斧始同十日木作り出來次第棟上願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵はねがひどほりゆるしおかう、さあ心だけゆるすのやで、さあ心だけゆるしおかう〳〵〳〵。

明治三十年六月二十六日

西部内傳法布教所設置の儀地方廳へ出願の處却下に付擔任變更再願の御許願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、事情は一つぜん〳〵に事情とんとどういふ事一つ事情、一時事情あらためてかうといふ處、事情はゆるしおかう〳〵。

右地方廳へ出願の願

さあ〳〵尋ねる事情、さあすぐと〳〵。

明治三十年六月二十六日

清水與之助心得迄地所の願

さあ〳〵尋ねる處〳〵、さあ〳〵たいてい年限事情といふ、一時もつて尋ねる處、今日一時事情、をひ〳〵事情なけりやなろまい、いつ〳〵事情どういふ事、一時もつてどうとなろまい、心といふ、まい〳〵心にかけてあたへといふ、理ある、あたへはせいてせかず、事情あつまりてくればあたへといふ、どうせかうせさしづでけん、これだけさしづしておかう。

明治三十年六月二十七日

高安部内水分布教所設置願（南河内郡赤坂村大字水分四三番地、擔任新田兵五郎）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほりゆるしおかう。

右地方廳へ出願の願

さあ〳〵尋ねる事情はすぐと〳〵。

明治三十年六月二十七日

河原町部内岐美支教會へ會長石原政治七月十六日に家族引移願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、それ〳〵心の理日々の心しやうがいの事情尋ねる處、さあ事情の理にゆるしおかう。

明治三十年六月二十七日

日和佐部内南洋出張所移轉願（同村字小堀彦鳥宅へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、前に事情一つ事情、又一時もつて尋ねる處、みなそれ〳〵の心にゆるしおかう。

明治三十年六月二十八日

高知部内津布理出張所祭日願（月次祭舊二日說教新三の日御紋鳴物及開始め本年舊六月二十日に願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月三十日

船場部内兒島支教會擬任若林泰一郎辭職に付後任高見熊治郎に願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、もう重々の理をはこび、まだそれでもどうといふやみな見定めつくやろ、それ〳〵より處〳〵にをさまり心をみて、さあ尋ねる事情はねがひどほりゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月三十日

東部内深川支教會所五間半に七間外に三尺樣側附坪數四十二坪八合三勺三方建添願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう、さあ心だけゆるしおくのやで、さあ心だけ〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

同部内麻布出張所月次祭舊八日說教新五の日御紋鳴物の願

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあ〳〵ゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月三十日

河原町部内恭仁出張所鎮座祭舊七月四日願（月次祭舊五日説教新十四日鳴物御紋願）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はねがひどほり〳〵、さあゆるしおかう〳〵。

明治三十年六月三十日

北部内大芋出張所移轉願（同村十三番地へ）

さあ〳〵尋ねる事情〳〵、さあ事情はぜん〳〵に事情一つ又一時もつて尋ねる事情は、みなそれ〳〵心事情心の理にてゆるしおかう。

明治三十年六月三十日

城法支教會山本もん身上願（六十七才）

さあ〳〵たづねる事情〳〵、さあ身上事情一つ理を尋ねる處、まあ一寸とうぶんであらうか、思ふ處一寸ながらえての處、いかなる事と尋ねる、人に心と云ふは、何もどうしてかうして心あらうまい、みなこれまでどう云ふ事とかう云ふ事、時々心のあんじ、これ一つやう〳〵日々おくりきたる處、一寸身上大層、事情にては何

をはなす事情あろまい、たんのうよりない、何もない、なれど十分たんのうとほすがよい。

昭和四年七月廿二日印刷
昭和四年七月廿六日發行

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島一七一番地
編纂者　天理教教義及史料集成部
奈良縣山邊郡丹波市町大字三島一七一番地
發行者　中山正善
奈良縣山邊郡丹波市町大字川原城三〇九番地
印刷所　天理教教廳印刷所
奈良縣山邊郡丹波市町大字三島三一一番地
印刷者　植田五郎

著作權所有

終